

「お弁当の日」から考えたこと

後期初日の10月12日(火)は、全員がおにぎり弁当を持参する「お弁当の日」でした。親にすべて作ってもらうのではなく、最低もおにぎりだけは生徒が自分で作るようになっていました。ふだん食事を用意してくれている家族のありがたさや、栄養バランスを考えて作ることの大切さを実感した人も多かったと思います。



** 永井 一哉 作「おにぎり弁当」 **

俵おにぎり(「悪魔のおにぎり」味)
ポテトサラダの生ハム包み、だし巻き玉子、
タンドリーチキン(スーパーで味付け済み)、
ミニトマト、ブロッコリー、レタス

かつて、「男は仕事、女は家事」といったように「性」による役割分担が当たり前になっていた時代がありました。「男らしさ」「女らしさ」という考え方にも通じるものです。

校長室だより第14号で「中学生らしさ」について触れましたが、この「男(女)らしさ」についても「中学生らしさ」と同様に、何の疑問も抱かずに受け入れることがあってはならない大きな問題であると考えています。

「男でなければ」「女でなければ」できないことは、実はそう多くはありません。お弁当を作ることも、性とは関係ないことです。それなのに、世の中では、性によって役割が決められていたり制限がかかっていたりすることが、まだまだ少なくありません。

生物学的な性を「セックス (Sex)」というのに対し、社会的・文化的な性を「ジェンダー (Gender)」といいます。上の話はジェンダーに関することで、これからの時代は、無用の性役割、ジェンダーによる差別・不平等をなくしていく方向に進んでいきます。そして、中学生の皆さんからも、これを推進する原動力になってほしいと思っています。

「大形中学校後援会」による支援に感謝！

生徒の皆さんは、「大形中学校後援会」という組織があることを知っていますか。この組織は、部活動をはじめとする大中学生の活動や学校の環境整備に対して支援することを主な目的として、地域が主体となって昨年度末に発足させた組織です。



- 人的な支援：部活動サポーターの人材発掘・管理
- 物的な支援：物品購入や大会参加にかかる費用の補助(金銭的) 美化活動など学校の環境整備への補助

皆さんが充実した活動を行うことができる背景に、地域の熱い応援があることを、皆さんは知っておかなければなりません。このような組織がある地域は決して多くなく、大中学生はとても幸せなのです。

そしてもう一つ。物的な支援に必要なお金がどのように工面されているか知っていますか。大形地区には6,000以上の世帯があります。その全世帯から、1世帯当たり100円、合計すると60万円以上となるお金を、大形中の活動等への支援に充てていただいているのです。

10月14日(木)の夜、今年度2回目の後援会理事会が開かれ、これからの活動に向けた話し合いが行われました。より実効的な取組を進めるための組織の在り方や、予算の執行の在り方等について、理事の皆様からたくさんのご意見やご提案をいただきました。

地域の力強い応援団の存在に、感謝するばかりです。「生徒の姿」で恩返しをしたいと思います。



後援会の支援が大きな力に！練習や大会で頑張ることで恩返し！



*** 理事会での協議の様子 ***
地域の皆様の熱い思いを強く感じます！

大形中学校 校長室だより
夢・希望・未来

令和3年10月18日

第17号